

令和4年度穎明館中学校入学式式辞

陽春の輝きが増し、高尾山の木々をはじめ自然界の多くが胎動し始める季節となりました。本日、学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生のご臨席を賜り、令和4年度穎明館中学校入学式を挙行できます。私は本校校長の橋本好広です。よろしくお願ひ致します。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませう。お慶び、お祝ひ申し上げます。

コロナ禍については、まだまだ心配で不安定な状況です。穎明館では、子どもたちの健康と安全を第一に考えた上で、「学びを止めない」、教育活動をしつかりと継続してあります。これから中学高校の6年間、穎明館教育への変わらぬご理解、ご協力をお願ひ申し上げます。

ただいま入学を許可しました189名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。皆さんはコロナ禍で大変な状況の中、中学入試を突破し、晴れて本校の生徒となりました。心より歓迎いたします。まずはご家族をはじめ、今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、新入生の皆さん、皆さんはEMKブリッジを渡って、正面玄関に掲げられている銘板に気づきましたか。読んでみましたか。銘板には「校訓」、「モットー」、「校歌」が書かれてあります。私立学校で一番、大切にしているもの、それは建学の精神といて、学校を創立した先生が、どういふ気持ちで学校を創ったかというその思い、教育に対する考え方です。穎明館の建学の精神に基づく「校訓」、「モットー」、「校歌」は、いづれも本校の創立者堀越克明先生が考えました。新入生の皆さんには、キャリア教育という授業で、改めて穎明館や創立者について学ぶ機会があります。皆さん一人一人、穎明館で学ぶ意味を考え、しつかりと勉強していきましょう。

今日は穎明館の「校訓」について少々お話しします。穎明館の「校訓」を読みます。

人生は何事に依らず
その目標は高く設定すべきである
その推進には高い知性と理性を必要とする

「校訓」とは学校の教育目標、方針のことです。創立者堀越克明先生は、「穎明館の生徒は高い目標をもって努力してほしい」と考えていらっしやいました。新入生の皆さんは、中学校入学に際して今、目標を持っていますか。それは高い目標ですか。そして皆さんが持つ、その高い目標を実現していくためには、知性すなわち物事を知る能力と、理性すなわち物事を判断する心のはたらきが必要であるということが、校訓の意味するところです。

新入生の皆さん、これから始まる中学校生活、高い目標を掲げて努力していきましょう。焦ることはありません。一步一步、着実に進んでください。穎明館の「校訓」を胸に、高い目標の実現に向けて努力し続ける、皆さんの日々の成長を楽しみにしています。

今日はもう一つ、新入生の皆さんに「出会い」についてお話します。人生は「出会い」と「別れ」と言いますが、4月は「出会い」の月です。

皆さんも今までいろいろな出会いをしてきましたね。物心ついて初めての出会いは、お母さん、お父さんをはじめ、ご家族だったことでしょう。その後、近所の幼馴染や、小学校や塾に通うようになってからは、きっと気の合う友達との出会い、先生・恩師との出会いもあったはずです。そしてこれから穎明館での中学・高校生活。友達や先輩、先生方との出会いも楽しみにしてください。さらに思春期、青年期を迎える皆さんは、「もう一人の自分」との出会いも経験すると思います。18世紀のフランスの思想家、ジャン・ジャック・ルソーはそのことを「第二の誕生」と呼びました。「人間はいわば二度生まれる。一度目は生存するために。二度目は生きるために」。生物的な誕生のあとに、自我に目覚める精神的な誕生を迎えるというわけです。自我が芽生えてからの中学・高校時代は青年期、ちょうどもう一人の自分との対話の時期だとも言われます。「自分を見つめるもう一人の自分」と上手につきあいながら大人になることが、中学高校時代の大切なテーマになります。気持ちが不安定になることがあるかもしれません。

自分自身で迷い、悩みながらも、抱えきれないときには、周囲の人たち、保護者・ご家族、先生方、友達に相談してください。「もう一人の自分」との出会いと対話を大切にしながら、大人への階段を上って行ってほしいと思います。

「出会い」ということでは、校歌で「みどり豊かな多摩の陵」と歌われる穎明館ならではの出会い、豊かな自然の中での出会いにも期待してください。そこで今日は環境保護の先駆者、女性生物学者のレイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』という本から少し読み上げます。

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見張る感性」を授けてほしいとたのむでしょう。

子どもたちがである事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知のものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

新入生の皆さん、「さまざまな情緒やゆたかな感受性」をもって、自然に囲まれた穎明館だからこそできる学びにもしっかりと取り組んでください。

今日は入学式にあたり、穎明館の「校訓」と「出会い」について、お話ししました。改めて今日のよき日の出会いに感謝し、喜びあいたいと思います。

穎明館 41 期生の皆さん、入学おめでとう。

以上、令和 4 年度穎明館中学校入学式式辞といたします。